

## 研究ノート

## 保育所実習の現状と乳児の指導実習

保育科 鈴木佐喜子

## はじめに

筆者は本学保育科において乳児保育Ⅰ・Ⅱ、保育所実習Ⅰ・Ⅱ、実習指導を担当している。この度、保育士養成カリキュラムの改正に伴い乳児保育Ⅱ（2年前期）が2003年度より選択科目から必修の演習科目となった。このことを契機として、乳児保育Ⅱの授業内容、方法の見直しを行い、授業に指導案作成を取り入れることにした。その際、乳児保育Ⅱ、特に指導案作成においては、保育所実習との関連を強め、保育所実習と結びつけた学習の充実を図ることが重要ではないかと考えた。

そこで、乳児の実習に焦点を当てながら、保育所実習Ⅰ・Ⅱにおいて学生がどのような実習を行っているのか、実習に対してどのような不安や意識を持っているのかについて、その現状を明らかにしたいと考え、調査を実施した。本稿は、乳児保育Ⅱの授業中及び保育所実習Ⅱ終了後に実施した調査結果の分析を中心に、保育所実習のあり方、乳児保育の授業内容の課題を明らかにしたものである。

## 1. 乳児保育における実践的力量向上の課題

この度の保育士養成カリキュラムの改正は、時代のニーズに沿った科目の強化が意図されており、乳児保育が通年の必修科目となった背景には、今日の乳児保育の拡大がある。図1は1989年から2002年にかけての年齢別保育所入所児童数の推移を示したものである。1989年と2002年を比較すると、保育所入所児全体の伸びが1.1倍程度であるのに対して、0歳児は1.8倍、1～2歳児が1.6倍と大きく伸びている。2002年の0歳児は7万1千人、1・2歳児は50万2千人であり、0～2歳児が全入所児に占める割合は30.5%となっ

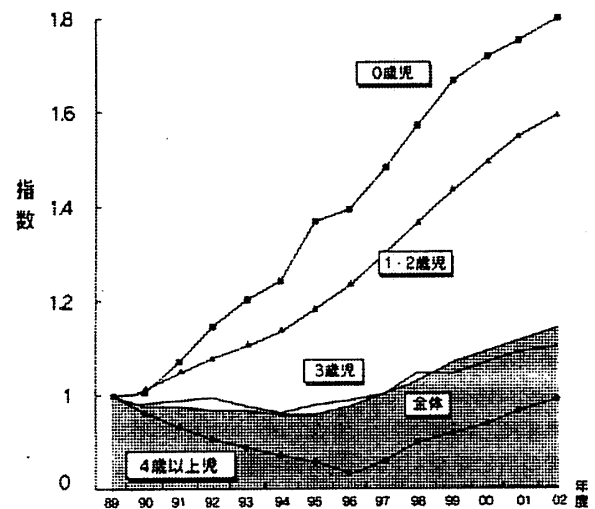


図1. 年齢区分別保育所入所児の推移  
(『保育白書2003年版』より)

ている。  
(i)

他方、本校においても保育所に就職する学生が増加傾向を見せている。保育科の業種別就職状況の推移を図2に示したが、1997年度を境として、私立保育園の就職者は増加傾向を示し、2002年度には就職決定者全体の56%となっている。公立保育園就職者9%を含めると保育園に就職した

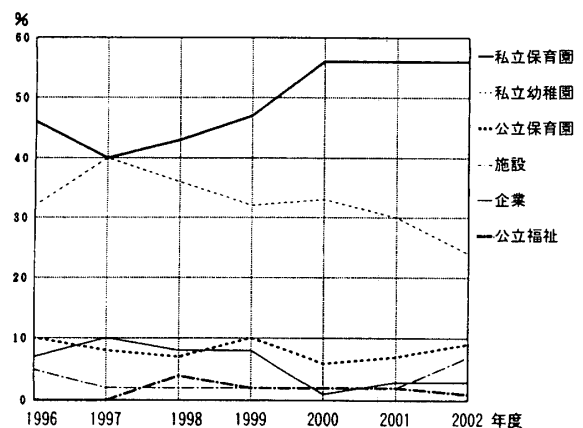


図2. 保育科業種別就職状況の推移 (1996年度～2002年度)  
(『白梅学園短期大学 要覧』より作成 1997年度のみ企業・公務)

者は65%を占めている。公立福祉1%も含めれば、その割合はさらに高いものとなる。筆者の知るところでは、乳児クラス(0・1・2歳児)は複数担任であることもあって、新卒者が乳児クラスの担任となる場合が多い。現在2年生の学生たちも保育所に就職すれば、来春には乳児を受け持つ可能性が高いのである。従って、乳児の実践的な力量を高めることは、学生にとっても、本校においても重要な課題となっていると考える。

## 2. 保育所実習Ⅰにおける乳児クラスへの入り方

今の2年生が1年次の保育所実習Ⅰ(2002年度)において、乳児クラスにどのように実習に入ったかを調べた(2003年4月25日実施、回答230名)。

表1に示したように、0・1・2歳各クラスに入った学生が最も多く111名であった。各クラスへの入り方としては、<2日ずつ>が35名で最も多かったが、<1日ずつ><3日ずつ>とする園、他に0歳・1歳・2歳児クラスに<1日・1日・2日><1日・2日・2日><1日・2日・3日><1日・3日・3日><1日・1日・5日><4日・1日・1日>など多岐に渡っていた。

表1. 保育所実習Ⅰにおける乳児クラスへの入り方の分布

	回答数
各クラス(0・1・2歳児クラス)に入った	111
2クラスに入った (1・2歳児クラス) (0・1歳児クラス) (0・2歳児クラス)	77 (71) (3) (3)
1クラスに入った (0歳児クラス) (1歳児クラス) (2歳児クラス) (その他 1～5歳縦割)	34 (8) (9) (16) (1)
入らなかった	9
計	230名

(2003年7月10日授業出席者に実施)

※0・1等混合クラスを含む

※1歳～、2歳～の園も含む

2クラスに入った学生は77名(「1歳と2歳」71名、「0歳と1歳」3名、「0歳と2歳」3名)で、ほとんどが「1歳児と2歳児」クラスに入っていた。クラスへの入り方では、<2日ずつ>が39名で最も多かったが、他は<1日ずつ><3日ずつ><1日・2日><1日・4日><3日・2日><2日・8日><4日・1日>と多様であった。

1クラスだけに入った学生は34名(0歳8名、1歳9名、2歳16名、その他1歳～5歳の縦割り1名)であった。クラスに入った日数は、1日1名、2日2名、3日5名、4日3名、5日6名、6日2名、8日1名、9日3名、10日11名と多岐に渡っていたが、5日以上の方が23名おり、集中して1クラスに入る傾向も見られた。0・1・2歳児クラスに全く入らなかった学生は9名であった。

次に0歳～2歳児クラスにおける実習日数の分布を見ると、0歳児では0日が最も多く114名で、次いで2日54名、1日45名となった。1歳児では2日が106名で最も多く、1日49名、0日43名、2歳児では1歳児と同様に2日が121名で最も多かったが、0日40名、1日35名の順となった。5日～10日入った学生は0歳児7名、1歳児14名、2歳児20名であった。

以上のように、保育所実習Ⅰでは見学・観察実習として、0歳から2歳、又は1・2歳の各クラスに入った学生が多いこと、0歳児クラスに入った学生、日数ともに少ないが、予想よりも多くの学生が乳児クラスに入っていることが明らかになった。これは、保育現場が10日間という限られた中で、子どもに配慮しながらも、乳児での実習を位置づけていることを反映しているのではないかと考える。

## 3. 乳児の指導計画・指導実習に対する

### 学生の意識

#### (1) 乳児の指導実習について

保育所実習において乳児の指導実習を行うことについては、人見知り等子どもへの配慮という点

から、また実習の難しさから、議論のある所であろう。例えば大川宏之は、0・1・2歳児は保育の中に育児にあたる部分が多く、あそびも育児に密接にかかわっているため、実習生が活動の計画を立て、実践にあたるのは難しく、「担任実習としてはあまり望ましいとも思えない」と述べている。しかし実習園によっては、乳児で指導実習を求められる場合があることも事実である。

こうした現状を踏まえ、学生が乳児の指導実習に対してどのような意識を持ち、どのような不安を感じ、何を知りたいと考えているかを把握する必要があると考え、調査を実施した(2003年6月20日実施、回答226名)。

保育所実習Ⅱにおいて、「乳児の指導実習をやってみたいか」については、「是非やってみたい」17.2%、「少しやってみたい」48.8%、計7割が「やってみたい」であった。他方、「あまりやりたくない」29.7%、「絶対にやりたくない」1.9%という結果であった(表2)。

表2. 乳児の指導実習をやってみたいと思うか

	回答数 (%)
是非やってみたい	37 (17.2)
少しやってみたい	105 (48.8)
あまりやりたくない	64 (29.7)
絶対やりたくない	5 (1.9)
NA	5 (1.9)
計	215名

(2003年6月20日の授業出席者で保育所実習Ⅱ対象者に実施)

乳児の指導実習を「やってみたい」理由としては、「乳児が好きだから」「乳児はあまり関わったことがないので、是非関わっていろいろと学びたい」「幼稚園実習では幼児クラスを担当したので、乳児クラスをやりたい」「実際に子ども達と関わり合い、自分が指導実習することで、乳児に対する理解が深められる」など、幼児とは異なる乳児の保育を経験して学びたい理由が最も多かった(100名)。

また、「保育園に就職したいと思っているので、乳児クラスで保育を行う時、困らないよう、保育

所実習Ⅱで指導実習をやってみて、反省点、改善点など見つけてつなげていきたい」「保育所に勤めたいので、乳児クラスの実習も経験してみたい」など、保育所に就職希望のためという理由もあった(37名)。ただ「やってみたい」と答えた学生の中にも、「自信がない」「不安が大きい」という声もあった(30名)。

表3. 乳児の指導実習に対する不安

- ①何をすればよいか分からない
  - ・何をやればよいのか全く見当がつかない
  - ・どのような活動がよいか想像がつかない
  - ・活動のイメージがなく、内容が心配
  - ・乳児だと集団遊びが出来ないので、どう指導案を立ててよいか分からない
  - ・幼児に比べまとめるのが難しいので、乳児では一体何をすればよいか分からない
- ②乳児をまとめる自信がない
  - ・乳児は言葉も通じないし人見知りもするのでまとめるのが難しそう
  - ・乳児だと言葉かけや説明を聞いても理解が難しく、まとめるのが難しい
  - ・幼い分、まとめたりするのが大変だし個人差も大きいので難しい
  - ・反応がない子や集中しない子をまとめるのは自信がない
- ③乳児への対応が難しい・苦手
  - ・コミュニケーションを取るのが難しそう
  - ・昨年、乳児クラスに入った時、人見知りが激しい子がいたり、どのように遊ばよいか分からず、戸惑ってしまう場面があり、乳児クラスに入るのは少し怖い
  - ・乳児への声かけが難しそう。言葉が分からない子もいるので、その対応ができるか不安
  - ・1年次の実習で乳児への対応が苦手だった
  - ・小さい子どもは怖い
- ④10日間の中での指導実習の難しさ
  - ・短期間に子どもの心をつかみ責任実習をするのは難しい
  - ・10日間しかない実習の中で、保育を把握し、指導実習をするのは難しいと思うから
  - ・3歳以上と違って性格も理解しづらいので10日間という短い期間では難しい
  - ・10日間で初めての乳児クラスだとかなり不安

他方、「やりたくない」理由では、「不安が大きい」「自信が持てない」「分からない」「苦手」などが圧倒的に多かった（68名中64名）。「やりたくないというより、やる自信がない」という回答が典型的に示しているように、乳児の指導実習の難しさや不安が乳児の指導実習をためらわせていることが伺えた。

## (2) 指導実習、指導案作成に関する学生の不安・知りたいこと

乳児の指導実習について学生が不安に思っていることを抽出し、その内容から特徴的な傾向を分類し、表3にまとめた。

学生の不安の第一は、指導案の立案、作成に関わる不安であった。この不安の一つは、①のように、「どんな指導実習をすればよいのか分からない」「活動のイメージがなく、内容が心配」「乳児では一体何をすればよいのか分からない」など、指導実習についての具体的なイメージが持てないということである。二つ目は、子どもたちを「まとめなければならない」ということに関わる不安や戸惑いである。①②のように、「集団遊びが出来ない」「言葉も通じない」「言葉かけや説明を聞いても理解が難しい」「個人差も大きい」「集中しない」乳児期の子どもたちをどのように「まとめればよいのか」「まとめる自信がない」という不安であり、まとめるのが難しいとしたら指導実習で「何をしたらいいか分からない」という戸惑いである。

第二の不安は、③の乳児とのコミュニケーションや対応の難しさに関わるものである。言葉が通じず、人見知りもある乳児期の子どもたちとどう関わるのか、コミュニケーションの取り方についての不安である。「小さい子どもは怖い」「乳児が苦手」などと乳児に対して恐れや苦手意識を持つ学生や、保育所実習Ⅰでの経験から、不安を抱く学生もいた。

学生がこうした不安を持つ背景には、「乳児とあまり触れ合ったことがない」「乳児との関わりがほとんどなく、1年次の保育所実習が初めてに

近い状態でした。0・1・2歳児に2日間の実習では乳児の事が分からず不安」「乳児は実習をあまりしていない」「保育所実習Ⅰで乳児クラスに入っていない」など、これまでほとんど乳児との触れ合ったことがないこと、保育所実習において乳児の実習体験が少ないことがあげられる。

以上に加えて、④のように10日間という短い期間の中で指導実習を行わなければならないことが、学生にとっては、一層、難しいものとなっていることが分かる。

## (3) 「主活動」のとりえ方について

学生の不安を分析する中で、一部の学生の中に「まとめなければならない」という意識が強く存在することを指摘したが、記述内容をさらに分析する中で、この点と密接に関わる特徴的な「主活動」のとりえ方が見受けられた。これらを取り出してまとめて表4に示した。①「乳児では主活動がなかった」、②「保育所では主活動がなかった」

表4. 「主活動」のとりえ方

### ①乳児に主活動がなかった

- ・ 幼児は主活動があって、そこで何をするのか子どもに沿って考えればよかったが、乳児は主活動の時間がないし、一人ひとりの個人差も大きい
- ・ 乳児の主活動の部分は幼稚園のようにはっきりとした主活動ようになっていなかったと思うので、どのように指導案を立てればよいのか分からない

### ②保育所には主活動はなかった

- ・ 保育所の主活動は全くなかったようにも感じるので、どのような主活動を入れたらよいか見当がつかない
- ・ 保育園では遊び中心で主活動をやっていなかったが、保育園での主活動にはどのような活動があるのか？
- ・ 中心となる活動をどんなことをしてよいかわからない。実習園ではずっと遊んでいた
- ・ 子どもたちがバラバラでどうしたらよいかわからない。自由遊びか散歩に行くだけだったのでどう指導したらよいかわからない

というとらえ方である。

大場牧夫らは、担任実習の時の「活動」を a「遊びの延長・発展型」と b「題材提案型」の 2 つに分類し、b「題材提案型の活動」はどちらかと言えば一斉・全体活動型に多く、実習生の場合には「遊び・延長発展型」の活動を「中心となる活動」として取り上げることは難しく、「題材提案型」のものがほとんどであると指摘している。<sup>(3)</sup> 恐らく幼稚園実習を終えたばかりの学生たちの中には、この「題材提案型」の指導実習体験が強烈に残っているが故に（この実習体験そのものの意義を否定するものでは決してない）、「題材提案型」だけが保育と捉えて、保育所や乳児には「主活動がなかった」という見方をする学生が出てきたのであろう。「主活動がなかった」と捉える学生にとっては、保育所実習において、どのような「主活動」をすればいいのか見当がつかないのも当然であろう。先に述べたような、学生たちの乳児との関わりや乳児保育の実習体験が少ないことだけでなく、このような学生の「主活動」のとらえ方も乳児の指導実習に対する不安や戸惑いを生み出しているのではないかと考える。

以上のことから、乳児保育Ⅱの授業の中で①学生の「主活動」のとらえ方、保育観を修正し広げていくこと、②学生たちの不安、知りたいことと結び付けつつ、乳児を保育するとはどのようなことであるのか、乳児の発達と保育、生活と遊び、乳児とのコミュニケーションなど、ポイントを押さえて再確認していくこと等の課題が浮かび上がってきた。

#### 4. 保育所実習Ⅱの内容・進め方と

##### 乳児の指導実習・部分実習

##### (1) 保育所実習Ⅱの全体的な進め方

2 年生が保育所実習Ⅱにおいて、どのような実習を行っているかを把握することは、来年度の乳児保育Ⅱの授業を進める上で重要であると考え、保育所実習Ⅱ終了後の 9 月 22 日に調査を実施した。

##### <実習の方法>

保育所実習Ⅱの実習方法は、「参加と指導実習」が最も多く、157 名で全体の 77.0%，約 8 割を占めていた。次いで「参加と部分実習」が 37 名、18.1%であり、「参加と指導実習」「参加と部分実習」で全体 95.1%となった（表 5）。本校では、保育所実習Ⅱにおいて、子どもの動きや保育者の動きを「観察」によって学ぶ実習方法を採用している実習園があったが、今回の調査で見える限りは、「観察」のみの実習生はおらず、指導実習、部分実習、参加実習という形で子どもたちと直接関わって実習していることが明らかになった。

表 5. 保育所実習Ⅱの実習方法

	回答数 (%)
参加と指導実習	157 (77.0)
参加と部分実習	37 (18.1)
観察と参加実習	5 (2.5)
観察実習	0
その他	5 (2.5)
計	204 名

(2003 年 9 月 22 日の授業出席者で保育所実習Ⅱを実施した者)

##### <クラスへの入り方>

保育所実習 10 日間にどのようにクラスに入ってきたかを調べた。クラスへの入り方は多岐に渡っていたが、代表的な入り方を以下に列举する。

①同じクラスで 10 日間又は土曜日を除く 9 日間実習する。クラスの保育、子どもの姿をしっかりと捉えて実習することを意図したものであろう。「参加と指導実習」が 78 名、「参加と部分実習」が 7 名で、指導実習を行う場合、最も多い進め方であった。

②各クラス（0 歳又は 1 歳から 5 歳）で 1 日ずつ実習することと一定期間（3 日～5 日間）同じクラスで実習することを組み合わせた実習。「参加と指導実習」32 名、「参加と部分実習」9 名で①の入り方について多かった。

③2 つのクラスで、それぞれ一定期間ずつ（4

日と5日など) 実習する進め方。「参加と指導実習」12名,「参加と部分実習」6名であった。

他に「各クラス(0歳又は1歳から5歳)に2日ずつ入っていく・又はその変形」「3つのクラスに入る」「同じクラスに7, 8日と他クラスに1, 2日」など多様な進め方のバリエーションがあった。

10日間という短い期間のなかで, いかにも実習をやり多しものとするのか, それぞれの実習園の工夫や模索が伺えるものであった。ただ「乳児に触れられなくて寂しかった」「乳児クラスにも入りたかった」(①でずっと幼児クラスに入った学生), 「あまりクラスの様子が見られず責任実習だったので・・・」(②の学生) という声もあり難しいところである。

## (2) 指導実習・部分実習の実施状況

### <指導実習を行ったクラス>

学生が指導実習を実施したクラスの分布を表6に示した。「幼児」で行った者が106名で65.4%, 「乳児」で行った者が54名で33.3%であった。年齢別のクラスでは2歳児クラスが38名で最も多く, 次いで4歳, 3歳となった。これらの結果から, 乳児クラスで指導実習を行っている学生が予想以上に多いことが明らかになった。

### <指導実習の回数と内訳>

指導実習を何回実施したか, 回数とその内訳を調べた(表7)。「1回」の者が115名と最も多く, 指導実習を実施した者全体の73.2%であった。「半日」52名, 「1日」48名でおよそ半々であった。「2回」の者は31名, 19.7%であった。「半日と1日」が16名で最も多く約半数を占めていた。

「2回以上」指導実習を実施した者の割合を「乳児」クラスと「幼児」クラスで比較したところ, 「幼児」では幼児全体の22.1%であるのに対して, 「乳児」では30.6%となり, 乳児クラスにおける指導実習の回数がやや多いことが明らかになった。その理由は明らかでないが, 乳児の指導実習を行う場合には, 実習の積み重ねをより重視する傾向にあるのかも知れない。今後, この傾向

表6. 指導実習を実施したクラスの分布

		回答数(%)
乳児クラス	0歳	1(0.6)
	1歳	14(8.6)
	2歳	※38(23.5)
	1・2歳	1(0.6)
	計	54(33.3)
幼児クラス	3歳	33(20.4)
	4歳	35(21.6)
	5歳	24(14.8)
	3・4・5歳	23(8.0)
	4・5歳	1(0.6)
	計	106(65.4)
その他(1～5歳)		2(1.2)
全体計		162(100)

※2クラスで指導実習を行った重複者5名  
(1歳と2歳1名, 2歳と3歳1名,  
2歳と4歳1名, 2歳と5歳2名)を含む

が今回の調査においてのみ見られたものであるのか, 継続的に検証した上で, 実習園側の意図, 理由を確かめていくことも必要であろう。

### <乳児クラスの指導実習・部分実習で行ったこと>

指導実習・部分実習において, 遊びに参加することや「主活動」の他に, 乳児クラスでどのようなことを行っているかを7項目について調べた。7項目のうち1つ以上, 何らかの形で行った学生は122名であった。この中には, 乳児クラスで指導実習を行った学生, 幼児クラスで指導実習を行い乳児クラスにも入った学生, 「観察実習と部分実習」「観察と参加実習」の学生が含まれている。

7項目の分布を表8に示したが, 多いものから順にあげると, 第1位「絵本・紙芝居の読み聞かせ」, 第2位「食事・おやつへの援助」, 第3位「オムツ交換」, 第4位「手遊び」となり, この4項目が圧倒的に多かった。今回の調査では, 着脱の援助, 排泄の援助, 寝かしつけが項目から欠落し

表 7. 指導実習の回数と内訳

		乳児 (%)	幼児 (%)	乳児と幼児	計 (%)
1 回	半日	2 0	3 2	0	5 2
	1 日	1 3	3 5	0	4 8
	その他	1	1 4	0	1 5
	計	3 4 (69.4)	8 1 (77.9)	0	1 1 5 (73.2)
2 回	半日×2回	2	3	2	7
	半日と1日	4	1 1	1	1 6
	1日×2回	3	0	1	4
	その他	1	3	0	4
	計	1 0 (20.4)	1 7 (16.3)	4	3 1 (19.7)
3 回	半日×3回	0	1	0	1
	半日×2回と1日	1	5	0	6
	1日×3回	1	0	0	1
	その他	1	0	0	1
	計	3 ( 6.1)	6 ( 5.8)	0	9 ( 5.7)
4 回	半日×2回 と1日×2回	2 ( 4.1)	0	0	2 ( 1.3)
	計	4 9 (100)	1 0 4 (100)	4	1 5 7 (100)

※その他は「主活動を中心とした短時間」、「主活動」のみ記入した者

表 8. 乳児の指導実習・部分実習で行ったこと

内 容	指導実習		部分 実習	参加 実習	計
	乳児	幼児			
絵本・紙芝居の読み聞かせ	5 0	2 6	2 0	0	9 6
食事・おやつの援助	4 3	3 1	1 8	1	9 3
オムツ交換	3 9	2 7	1 3	1	8 0
手遊び	4 3	1 4	1 5	1	7 3
朝の集まり	1 7	1	0	0	1 8
授乳	9	4	3	0	1 6
その他	1 7	5	3	0	2 5

※回答数 1 2 2 名、複数回答

※その他（着脱の援助、散歩の補助、寝かしつけ等）

乳児（1～5歳縦割り含む）

ており、正確さを欠くものとなったが、恐らくこれらの関わりも多いものと予想される。

#### おわりに

以上の結果から、次の点が明らかになった。

①見学・観察実習である1年次の保育所実習Ⅰにおいて、乳児クラスに入らなかった学生は230名中9名のみで、ほとんどの学生が乳児クラスに入っており、学生の半数近い111名は0・1・2歳の各クラスに入って実習を行っていることが明らかになった。

②参加・指導実習である2年次の保育所実習Ⅱにおいて、54名が乳児クラスで指導実習を行っており、乳児での指導実習実施者は学生全体の26.5%、指導実習実施者全体の33.3%、約3割であった。指導実習を実施したクラスでは、2歳児クラスが幼児をふくめて全体で最も多いという結果であった。指導実習・部分実習を含め、乳児クラスで何らかの活動、援助を経験した学生が122名いた。

また、乳児クラスにおいては指導実習、部分実習など乳児と直接関わりを持たず「観察実習」として学ぶという実習方法を採用している実習園が存在したが、今回の調査においては「観察実習」のみという学生はいなかった。実習園の実習内容、進め方にも変化が生まれているのかも知れない。

本校における保育所実習の具体的な内容、進め方については、これまで実習巡回指導、実習打ち合わせ会等において、断片的には把握されてきたが、今回の調査により、不十分ながらも全体的な実施状況が明らかになったことは、意味があると考ええる。ただ、実習で入るクラスや指導実習の回数など実習の具体的な進め方は、実習園側の実習に対する考え方を基調としながらも、それだけでなく、その年度の園側のさまざまな事情、入ったクラスの実習指導の保育者の考え方、学生側の希望などによって左右される要素も大きい。従って、今回の調査結果についても、「今年度」の実習状況という要素があることを押さえておく必要がある。

筆者の知る限りでは、これまでの保育所実習に関する調査・研究において、実習の事前・事後指導、実習が学生に与える効果、保育所実習と教育実習の連携、実習のストレスや不安などについての調査・研究は存在するが、クラスへの入り方や指導実習の内容等、具体的な実習の内容、進め方についての調査・研究は見受けられなかった。今回の調査は、あくまでも本校の実習園における実習の現状であり、保育所実習の具体的な進め方、内容には養成校の特色や実習園との関係、地域性などが色濃く反映されることもあろう。その意味でも今回の調査結果は限定的なものではあるが、保育所実習の具体的内容、乳児クラスでの実習について、一步踏み込み、より具体的な現状を明らかにした点で、一定の意味があるのではないかと考える。

今回の調査結果を踏まえて、今後の課題として、次の点を指摘したい。

第一は、保育所実習における乳児の実習のあり方、特に乳児の指導実習の問題である。先に述べたように、今日の学生は乳児に接した経験が極めて少なく、乳児保育に対する戸惑いは非常に大きい。他方、新人保育者が乳児クラスの担任になる場合が多いように思われる。乳児保育が拡大している今日の状況にあっては、新卒で乳児を担当するケースはますます増えていくことが予想される。

このように保育者養成において、乳児保育の実践的力量を高めることは非常に重要な課題となっていることは明らかである。ほとんど乳児と触れ合ったことのない学生の現状と保育現場に出た時に求められる保育力量のギャップはこれまで以上に大きくなっていると言えよう。そうであれば、養成課程2年間の間にこのギャップをどのように埋めていけばよいのだろうか。これは養成校における関連授業科目の課題であるが、保育所実習の重要性も大きいのではないかと考える。保育現場との連携を強め、保育所実習における乳児の実習や指導実習のあり方について、さまざまな角度か



ら検討していくことが求められていると言えよう。

保育所実習において、乳児クラスに入ること、特に乳児の指導実習については議論があることは先に述べた通りである。乳児は大人の影響を受けやすく、衛生・健康・安全管理という点からも、乳児の実習については特に配慮が必要なことは言うまでもない。学生にとって乳児の指導実習が難しいことも事実である。今後、乳児の実習、特に指導実習についての考え方や新卒保育者のクラス配置などについて、実習園側の現状や意向も把握しながら、保育所実習における乳児の実習のあり方について、さらに検討を積み重ねていく必要があると考える。

第二は、乳児保育Ⅰ・Ⅱにおいて、乳児保育の実践的力量をどのように高めていくかという課題である。調査の中からも、あそびや活動のイメージが持てない、乳児保育や指導実習における「主活動」のとらえ方の不十分さ、乳児と接することへの学生の不安や戸惑い等、乳児保育の授業内容と関わる課題が浮き彫りとなった。

①乳児保育Ⅰでは保育所実習との関連を意識しつつ、保育所実習Ⅰ終了後の日誌、観察記録を活用し、乳児の発達と保育のより具体的な理解を図る取り組みを行ってきた。乳児保育Ⅰも演習科目となったことから、これに学生の相互検討による学習を加え、個々の学生の学びを広げ、深めたいと考えている。

②乳児保育Ⅱでは、9月の保育所実習Ⅱを意識し、学生の「不安」や「知りたいこと」と結びつけた乳児保育の学習を進め、乳児の指導案作成と学生同士の相互検討も取り入れてきた。「授業ではあまり触れられない1歳児の指導計画の立案」<sup>(4)</sup>と指摘されるように、養成校において乳児の指導案作成の指導に関する知見は未だ少なく、筆者も試行錯誤の段階である。授業時間数の制約もある。このように多くの困難を伴うが、工夫、改善を求められる点である。今後、今回の調査結果を土台として、保育実践や他の養成校の実践などからも学びながら、乳児保育Ⅱの授業内容のさらなる改善を

図っていきたいと考えている。

## 引用文献

- (1)全国保育団体連絡会・保育研究所編『保育白書 2003年版』, 11 頁, 2003 年, 草土 文化
- (2)大場牧夫他著『<新版>幼稚園・保育所実習の活動の考え方と計画・展開の仕方』, 72 頁, 2002 年, 萌文書林
- (3)同上 14~15 頁
- (4)阿部明子他著『<新版改訂>幼稚園・保育所実習の指導計画はこうして立てよう』, 145 頁, 1994 年, 萌文書林

## 参考文献

- ・全国保母養成協議会『基礎技能・保育実習に関する研究』, 1995 年, 保母養成資料第 14号